

ニュースリリース

トヨタ・モビリティ基金、コロンビア・メデジン市と協働し、インクルーシブな公共交通を実現する「Medellín Mobility for All」を開始、5団体を選定

2026.2.25 **都市課題への対応** **障害者移動支援** **北米** **ニュースリリース**

一般財団法人トヨタ・モビリティ基金(理事長:豊田章男、Toyota Mobility Foundation、以下「TMF」)は、コロンビア・メデジン市のイノベーション推進機関である Ruta N^{※1} と協働し、移動に課題を抱える市民の方々が、自立的かつ安全に移動できる都市の実現に向け、公共交通のアクセシビリティ向上を目的とした取り組み「Medellín Mobility for All」を開始。チリ、ブラジル、米国、ギリシャ、スペイン、コロンビアの6か国から20件の応募があり、実証実験に参加する大学・企業など5団体を選定しました。

※1 Ruta N-コロンビア・メデジン市のイノベーションとテクノロジー推進を担う公的機関。企業、学術機関、行政を結びつけ、スマートシティ化や市民中心のイノベーションを促進する役割を果たしています。

メデジン市では、市内道路の55%以上が急坂で構成されており、特に マンリケ および アランフェス 地区は身体的な障害を抱える居住者が多く、日常的な移動に課題が生じています。

本プログラムでは、メデジン市における移動課題を以下の3つの領域に整理し、課題解決につながる実証ソリューションを募集しました。

1. 歩行者や移動補助具利用者の安全性向上による「インクルーシブな移動」の実現
2. 公共交通へのバリアフリーなアクセス改善
3. バスへの乗降・利用を、迅速かつ安全・確実に行える環境整備

選定された企業・団体はいずれも、現地の移動に課題を抱える市民と協働しながら、2027年3月までの期間、持続的な社会実装を見据えた取り組みを推進します。助成総額10億コロンビアペソ(約4,000万円)で、そのうち5億コロンビアペソが実証フェーズに充てられます。

〈選定 5 企業・団体の提案概要〉

● Brazo Amigo SAS(手動車椅子の電動アシストメーカー)

手動車椅子に装着できる電動推進デバイスを開発し、坂道や難地形の多い都市環境における移動負荷の軽減を図る。

● Solyon Technologies (AI 技術の中核とするテクノロジー企業)

AI を活用した会話型デジタルアシスタントによる障害のある方にも利用しやすい移動中の経路案内。リアルタイムの交通情報を活用し、移動中に生じる不安や課題に対して AI が対話を通じてサポートすることで利用者が最適な移動判断を行えるよう支援。

● Universidad EAFIT (大学)

公的データと障害のある方が使いやすいように設計された経路案内アプリを活用し、危険箇所などの把握を容易にすることで利用者にとって安心・安全な移動計画を支援する。

● El Comité Fundación (NPO 非営利活動法人)

バス停および乗降環境の物理的改善。スロープの整備や乗降口の改善を通じて、車椅子使用者を含む多様な利用者が安心して公共交通を利用できる環境づくりを進める。

● Fundación Más Urbano(都市環境改善・都市デザインの社会団体/非営利組織)

低コストかつ短期間で実施できる実証的な都市改善(タクティカル・アーバニズム)を展開。都市の段差解消や案内サインの整備など、市民のフィードバックを取り入れながら改善を継続的に実施。

以上

お問い合わせ

トヨタ・モビリティ基金

[お問い合わせフォーム](#)

トヨタ自動車は創業以来、お客様、ビジネスパートナー、従業員、そして地域社会等、全てのステークホルダーを尊重しながら、自動車を通じた豊かな社会づくりを目指して事業活動を行なっています。そして、より公益的な活動を行うことを目的に、2014 年 8 月、TMF を設立しました。TMF では、モビリティを通じ

た豊かな社会づくりへの貢献に向けて、世界中で移動課題への対応をはじめとした幅広いプロジェクトに取り組んでいます。



TMFは、幅広いプロジェクトを通じて培った技術やノウハウを活用し、多様なパートナーとの協議を通して、国連が定めるSDGs(持続可能な開発目標)の考え方にも沿った活動を進め、持続可能な社会の実現に向けて貢献していきたいと考えています。